

平成28年度 学校評価報告書(総表)

平成29年6月30日

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属聴覚特別支援学校	校長名	原島 恒夫
幼児・児童・生徒数	245	学級数	42
2 教育目標等			
① 学校教育目標	聴覚障害のある幼児児童生徒の心身の発達段階に応じた最も適切な方法で教育し、進んで自分の能力を開発し広い視野に立って文化的・生産的活動に寄与できる人間の育成に努める。また、これら目標達成のための教育実践を通して、筑波大学の教育研究に寄与する。		
② 学校経営方針	(1)聴覚障害教育の実践を通じて筑波大学の教育研究に協力する附属学校として、その成果を内外に発信する。 (2)附属学校が取り組んでいる3つの拠点構想(先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点)を踏まえた学校経営により、聴覚障害教育の実践力の向上、そのための研究成果の公表に努める。 (3)学校教育目標を達成するために各学部においては、具体的目標を定める。 (①幼稚部:話し言葉を通して日本語の基礎を習得させることに努める。②小学部・中学部:障害の状態に配慮した指導のもと、小・中学校と同じ教育課程によって教科学習を進め、同学年の健聴児童生徒と同等の学力が身につくよう努める。③高等部:生徒一人一人の進路と能力・適性に応じた教育課程によって、進学や就職などの実現に努める。)		
③ 重点目標	(1)国際交流拠点事業の拡大と充実。フランスパリ聾学校、台湾台中啓聡学校との生徒間交流の実施。 (2)早期教育の充実に向けた支援ネットワークと支援体制の構築。 (3)高等部専攻科における将来構想に向けた検討。 (4)ホームページやリーフレット等を通しての情報発信の充実。 (5)第50回全日本聾教育研究大会の運営と教育実践の公表。		
④ 前年度の成果と課題	【成果】 (1)フランスパリ聾学校との間で、交流協定継続を確認した。パリ聾学校の教員生徒をはじめ海外の教員研究者が多数来校。交流を通し国際理解を深めることができた。 (2)耳鼻科医や言語聴覚士等とのケース会議を通し、乳幼児教育相談や支援の充実をはかった。 (3)教育実践や研究成果を「聴覚障害」誌(年4回発行)や研究紀要を通じ公表した。 (4)随時ホームページの更新を行い教育活動の公開に努めた。教育関係者や保護者から評価を得た。 【課題】 (1)高等部専攻科入学生徒増に向けた具体的検討。 (2)補聴システムの充実。		

3 重点目標達成についての総括的評価

- (1) 国内状況を考慮し、本校生徒のフランスパリ聾学校訪問及び交流学習は実現しなかった。それ以外に予定された国際交流拠点事業は全て実施した。
- (2) 早期教育の充実に向けた取り組みは、行政や学校間のみならず、医療と直接的な関係を持つことができた。
- (3) 第50回全日本聾教育研究大会(附属大会)において研究成果や授業公開を行い参加者から高い評価を得た。

4 来年度の学校課題

- (1) 医療機関との連携をさらに深め、人工内耳を装用した乳幼児教育の充実をはかる。
- (2) 高等部専攻科入学生徒増に向け更なる検討を行う。
- (3) 若手教員の専門性と指導力向上に向けた取り組みを行う。

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- (1) 東京キャンパスにおける乳幼児教育相談事業の開始。
- (2) 高等部専攻科教員による出張授業の開始。
- (3) 若手教員を対象とした研修会の開催。